CLOSE UP

サステナビリティ経営の強化

地球規模で環境・社会問題が深刻化する中、私たちはサステナビリティを巡る課題を直視し、積極的かつ適切な対応をとらなければなりません。しかしそれは義務とは異なります。社会環境の変化はリスクであると同時に人類共通のニーズであり、創業からの経営理念である三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」には、すでに人類への貢献がうたわれているからです。私たちは今まで以上に強く三愛精神を意識し、社会が直面している危機に対応しなければなりません。

環境・サステナビリティのあゆみ

Step 1	2002年～	●「三愛石油環境ビジョン」制定 ●全国の拠点でISO14001認証を取得　● 危険物施設の環境安全監査が始まる
Step 2	2006年～	●「環境報告書」発行 ●高知県、高知県本山町と「協働の森づくり事業パートナーズ協定」締結
Step 3	2016年～	●ISO26000の活用 社会的責任の国際規格を参考に今までのCSR活動を7つの領域に整理。 人権やサプライチェーンへの意識が養われる。
Step 4	2019年～	●SDGsの視点 国連で採択された「持続可能な開発目標」。 169のターゲット、SDGsコンパスを参考にリスクをニーズ、成長機会と捉え経営企画部が指揮。
Step 5	2021年～	●サステナビリティ基本方針の策定、サステナビリティ推進体制の強化 気候変動への対応、事業リスクの分析、事業機会の創出など経営層の意思決定により サステナビリティに関する取り組みを推進する。

POINT 01 環境と社会の課題解決に向けてサステナビリティ基本方針を策定

気候変動や人権問題などさまざまな課題が山積する中、それらの解決のために企業が行動することを社会から強く求められています。エネルギーを取り扱う当社グループにおいては、低炭素社会への貢献は対処・挑戦すべき重要な経営課題の1つです。そこで2021年12月に「サステナビリティ基本方針」を策定し、サステナビリティに関する取り組みをこれまで以上に深化・発展させることを表明しました。

エネルギーの安定供給という使命を果たしながら、SDGsやパリ協定（1.5℃目標）で示された国際的な目標達成に向け、当社グループも取り組みを進めていきます。

サステナビリティ基本方針

当社グループは、経営理念である三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」とコーポレートブランド「Obbli」のもと、社会インフラの一端を担う企業としてエネルギーの供給責任を果たすとともに、低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオに進化させ、人々の生活と産業を支えるパートナーとなることを目指しております。当社グループの役員および社員は、以下の5項目を基本姿勢とし、健全かつ透明性の高い経営を通じて環境や社会の課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

私たちの基本姿勢

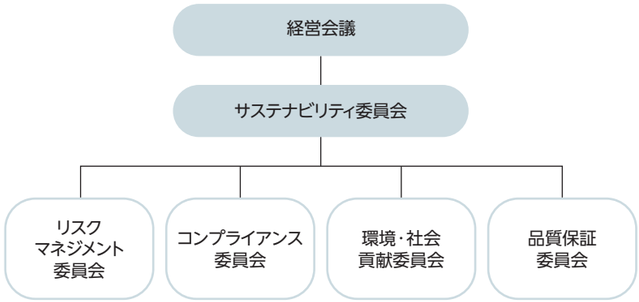
- 誠実・正直に行動します。
- 顧客の満足を追求します。
- 法令、ルールを順守します。
- 自ら学び、自ら考え、自ら行動します。
- 自然環境・地域社会との関係を大切にします。

POINT 02 サステナビリティ経営を推進するために委員会を再編

2022年4月にCSR委員会をサステナビリティ委員会に改め、下部の委員会を再編し、顕在化する社会課題や事業リスクに対応できる体制を整えました。

次の世代に現在の自然環境や社会・経済の価値を受け継いでいくためには、今が非常に大切なタイミングです。複雑化する社会要請に応えるべく、各委員会ではガバナンスやサステナビリティの意識を高め活動していきます。

再編されたサステナビリティ推進体制

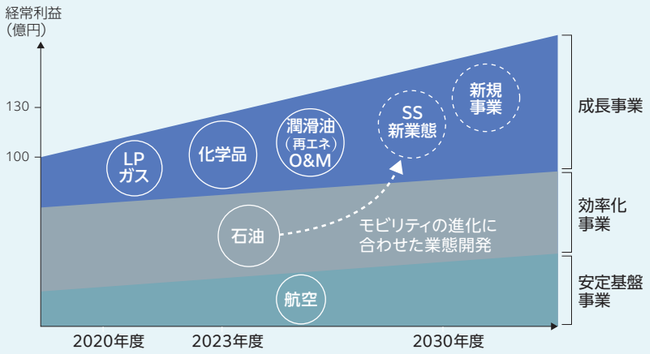


事業にサステナビリティを織り込むための取り組み

4委員会で議論された内容をサステナビリティ委員会で審議。経営層によって意思決定されることで実効性を上げる仕組みを構築しています。

サステナビリティを経営の中核に据えた中期経営計画

中期経営計画「変貌する未来への挑戦 Challenge2030」では、新しい事業領域に積極的に挑戦することで事業ポートフォリオを進化させ、地球環境、事業成長ともに持続可能な発展を両立できるよう行動していきます。

2022年4月、成長事業領域について調査・研究を行うため、事業開発部が新設されました。

中期経営計画で取り組む事業ポートフォリオ